

## 2021年度入試の問題分析

## ① 出題分量と出題形式

一般選抜 前期日程(3科目型) <2/9><2/10>ともに大問4題、問題数39問となっている。両日とも分量は同程度で2020年度入試(問題数39問)とほとんど変わらず、試験時間内で十分に解答できる。時間が余った場合は、読み違いなどのケアレスミスがないかどうかを確認しておきたい。

出題形式は、両日とも全問マーク式であり、空欄補充問題(<2/9><2/10>ともに19問)と短文選択問題(<2/9><2/10>ともに14問)で構成されているが、組み合わせ問題や正誤判定問題、図表読み取り問題なども出題される。短文選択問題について、設問文の約半分(<2/9>は14問中9問、<2/10>は14問中7問)には“適切ではないもの(誤っているもの)”を選ぶように付されている。また、比較的文字量の多い選択文も出されており、正確な読み取りが必要となる。短文選択問題には細心の注意を払って取り組もう。

## ② 出題分野

一般選抜 前期日程(3科目型) <2/9>は政治分野、経済分野がそれぞれ2題ずつ、一般選抜 前期日程(3科目型) <2/10>は政治分野1題、経済分野2題、国際政治分野1題という出題構成になっている。

## ③ 出題内容と難易度

政治分野においては、「司法の仕組み」「基本的人権と政治参加」<2/9>、「基本的人権」<2/10>が出題された。経済分野においては、「小さな政府と大きな政府」「エネルギー問題」<2/9>、「日本の金融政策」「労働問題(正規雇用・非正規雇用)」<2/10>が出題された。国際政治分野では、「感染症と国際関係」<2/10>などが出題された。

難易度については、一部の短文選択問題には教科書の範囲を超えた詳細な知識を要する問題も含まれているが、ほとんどの問題は教科書に準拠した標準レベルの問題である。日程によりばらつきはあるものの、全体的に見て難易度は「やや易」から「標準」であろう。

## 学習アドバイス

ほとんどの問題が教科書に記載されている基本事項について問うものであり、標準的な問題である。普段から行っている継続的な学習で十分に対処できる。

## ① 教科書の内容を徹底的に理解しよう

教科書にのっとった標準的な問題が多く出題されるので、まずは教科書の内容をしっかりと理解するようにしよう。全分野から出題されているので、各分野にわたって幅広い知識と理解力を身につけることが必要となる。学習する際に、教科書の太字などで記されている重要語句を単に暗記するのではなく、その前後の文脈も含めて仕組みや出来事などを体系的に身につけるようにしよう。また、教科書の欄外に示されている語句なども問われることがあるので、見落とさずに学習しておこう。基礎的な問題で確実に点数を獲得することが、合格へとつながることを忘れないでおこう。

## ② 用語集や資料集を利用しよう

教科書を学習していてわからない用語や難解な用語が出てきたら、すぐに調べられるように用語集を用意しておくことと便利である。また、教科書で学習した事柄について理解を深めるために、資料集なども積極的に活用しよう。その事柄と他の出来事との関連性がわかることもある。

## ③ 憲法の重要な条文を覚えよう

空欄補充問題などで、「日本国憲法の条文」が問われることがある。暗記するだけで点数が取れる場合があるので、第9条や第14条など重要な条文は覚えておこう。

## ④ 時事問題に関心を持つ

摂南大学では、時事問題の出題はそれほど多くないが、「香港の一国二制度や民主化運動を脅かす国家安全維持法」「参議院議員通常選挙での特定枠」「新疆ウイグル自治区やロヒンギャ族への人権侵害」<2/9>や「中国の一路」<2/10>などが出題されている。こういった時事問題の対策として、日頃から新聞やテレビ・インターネットのニュースなどに接し、政治・経済や現代社会に関わる諸問題の動向に関心を持つことが挙げられる。そうすることで、時事問題と教科書で学習した内容が線でつながるはずだ。また、「政治・経済」「現代社会」の学習にさらに興味を持つことができ、理解力もアップするであろう。

## ⑤ 問題集や過去問を解こう

教科書中心の学習を終えられたら、知識を定着させるためにも、なるべく多くの演習問題を解くことが大切だ。教科書の内容を確認できる基礎的な問題集がよいであろう。その後、摂南大学の過去問も解いてみよう。過去問を解くことで演習力が身につけられ、実際の傾向や難易度もしっかりとつかむことができる。